

平成9年7月16日

## 豊島区南長崎在住の野村万蔵さん豊島区名誉区民に

16日、和泉流狂言師で豊島区南長崎在住の野村万蔵さん(67)が東京都豊島区名誉区民に選定された。

野村万蔵さんは、昭和5年に六世野村万蔵(人間国宝)の長男として当時の北豊島郡栗鴨町に生まれた。4歳のとき「鞆猿」(うつぼざる)で猿を演じたのが初舞台。昭和25年に「釣狐」(つりぎつね)を披(ひら)いて四世野村万之丞を襲名。その後「那須与市語」(なすのよいちかたり)「三番叟」(さんばそう)「金岡」(かなおか)「花子」(はなご)などの大曲や数々の大役を演じ、平成5年に七世野村万蔵を襲名した。狂言を単に軽妙滑稽なものではなく舞歌(ぶが)を基本においた品位ある演劇に高めていこうという意図が多く、多くの舞台で実を結び、重厚な芸風を築いてきた。

このような業績により、芸術祭奨励賞及び優秀賞を6度受賞し、昭和61年度には日本芸術院賞受賞、平成6年度に紫綬褒章受賞。さらに、平成9年6月には、国の重要無形文化財「狂言」の保持者として人間国宝に認定された。

また、野村さんは、伝統芸能を現代に生かそうと、ギリシャ劇、フランス前衛劇にも取組み新作狂言の境地を開くとともに、NHKの大河ドラマ「新平家物語」「翔ぶがごとく」や朝の連続テレビ小説「おしん」に出演するなど、幅広い芸域活動を展開している。アメリカ、ヨーロッパをはじめ世界各地で海外公演を行い、狂言のみならず日本の伝統芸能の普及に尽力している。平成9年6月には、社団法人日本芸能実演家団体協議会会長に就任するなど、日本の芸能の分野全般において指導的立場で活躍している。

豊島区においても、昭和63年から今年で10回目の開催となる「としま薪能」では毎回狂言を演じ区民から好評を博している(今年は8月30日に開催)。また、平成7年には狂言の初心者を対象とした「万蔵家狂言会普及公演」を長崎一丁目の「観昭会館」で開催するなど、地域文化の振興と発展に大きく貢献している。

詳細 総務課総務係